（別紙4）　　令和　2　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4098000062		
法人名	社会福祉法人　光和苑		
事業所名	認知症対応型グループホーム　かすみそう		
所在地	〒800-0337　福岡県京都郡苅田町稲光1244番地　℡ 0930-26-9020		
自己評価作成日	令和03年01月28日	評価結果確定日	令和03年03月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人　北九州シーダブル協会
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5番27号　℡ 093-582-0294
訪問調査日	令和03年03月03日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

今年度はコロナウィルス感染症のため、計画していた行事などすべて中止になり、利用者をはじめご家族の方にも迷惑をかけています。今後、コロナウィルス感染症が終息すれば、自然環境の良い中で畑を一緒に作り、土に触れ、作業ができない方には泥のついた作物などの香りや重みを体験してもらい皆さんと一緒に食べる喜びを味わうようにする。今は職員が畑を作り収穫したものを一度見てもらい食事の一品にしている。また、外食はテイクアウトの弁当などを利用し、各行事の食事の充実したものの提供を行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

自然が残る豊かな環境の中で、母体法人併設の定員9名のグループホーム「かすみ草」がある。多くの事業所が集まる福祉村の一角に2年前に開設し、認知症高齢者が安心して暮らせる事業所である。敷地内の「いなみつ村」では、無料講座を開催し、障がい者、高齢者、地域住民の交流の場となっている。「なんだかんだ祭り」や「地域応援餅つき大会ふれあい祭り」には多くの参加者で賑わい、地域の祭りとして定着している。（コロナ感染予防のため自粛中）栄養バランスの取れた配食サービスを利用しているが、園庭で育てた野菜を献立に取り入れたり、ケーキ作りに挑戦する等、利用者が「食」を楽しめるよう工夫している。施設長を中心に優しい職員がまとまり、「ゆっくり」「たのしく」「共に」をモットーに、職員が笑顔で利用者に寄り添い、明るい笑顔を見守る家族の喜びは大きく、利用者や家族と、深い信頼関係が築かれている、グループホーム「かすみそう」である。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：25.26.27）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：20.40）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：40）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：38.39）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、日常的に戸外へ出かけている（参考項目：51）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：32.33）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
64	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：30）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,21）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
66	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,22）		1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
68	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所内に理念を掲げ、名刺の中にも入れている。この頃は理念の必要性を職員がわかりだした。	理念を見やすい場所に掲示し、職員会議や法人研修の中で、職員一人ひとりが理念を理解出来るように取り組んでいる。「ゆっくり・楽しく・共に」をホームの柱として、利用者一人ひとりの個性や生活習慣に配慮した、介護サービスに取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウィルスの関係で、祭りや無料講座の中止を行っているので地域との付き合いが、できていなかった。今までの交流を知っている地域方が、是非入居したいと言われ12月に入居した。	コロナ禍以前は、法人全体で取り組む夏祭りや冬まつり、「いなみつ村」で開催される無料講座（カラオケ、生け花、書道等）や各種イベントに参加して、地域住民と交流が図られていた。年2回行われる地域の環境美化活動にも利用者と職員が参加している。（現在はコロナ感染のため自粛中）	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	本年度はコロナウィルスの関係で、地域の貢献はできなかった。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	本年度はコロナウィルスの関係で、運営推進会議はできなかった。	運営推進会議は2ヶ月毎に開催し<ホームの運営や取り組み、事故やヒヤリハット等の報告を行い、参加委員からは、質問や意見、情報提供を受けて活発な意見交換が行われ、ホームの運営や業務改善に反映出来るように取り組んでいる。（自粛中である）	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村の担当者とはできるだけ直接会わずに、メールなどを利用して協力関係を取った。	施設長が、高齢者推進委員会の委員として、行政と関わることが多く、情報交換を行っている。介護の疑問点や困難事例等を行政窓口に相談し、ホームの空き状況や事故等の報告を行い、行政と協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	車椅子上での拘束はしなかったが、玄関の施錠は、有料老人ホームからの利用者が、絶えず玄関を開け外に出ようとしたときには、施錠を行った。そのほかの身体拘束は行わないように取り組んでいった。	身体拘束の職員研修を、年2回職員会議の中で開催し、禁止行為の具体的な内容について職員間で確認し、利用者一人ひとりに合わせた対応を心掛け、言葉遣いや薬の抑制も含めた身体拘束をしない・させない、介護のサービスの提供に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	セルフチェック表を1ヶ月に1度記入して自分自身のチェックを行った。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	保佐人を利用している利用者とのやり取りを、全職員に伝え、パンフレットなどもそろえた。	権利擁護の制度に関する資料やパンフレットを用意し、利用者や家族から相談があれば、内容や申請方法を分かり易く説明し、関係機関に橋渡し出来る体制を整えている。現在、成年後見制度を活用している利用者の保佐人とのやり取りの中で、制度について理解できるように取り組んでいる。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に契約に関する説明を重要事項を読みながら、説明し、退去時には、前もってその後に行く病院などのこともパンフレットなどをいただき説明を十分に行った。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を玄関に設置しているが、コロナウィルスの関係で、建物の中に入ることができなかった。電話や、リモートでの面会を行い、職員が意見をいただいた。	職員は利用者の希望を聴きながら、家族面会時に利用者の生活状況や健康状態を報告し、家族の意見や要望、心配な事等を聴き取り、ホーム運営や利用者の日常介護に反映させている。また、玄関に意見箱を設置し、外部の相談窓口も掲示して、家族の意見や要望が出し易い環境整備に取り組んでいる。（コロナ感染のため制限している）	年1、2回、行事を兼ねた家族交流会を開催し、ホームと家族、家族同士の交流を図り、共に利用者を支える関係を築いていく事を期待したい。
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	密にならないように、法人の経営会議を管理者と理事長のみで行った。その際に職員の要望などは検討した。	月1回職員会議を定期的に開催し、職員の意見や提案が出し易い雰囲気をつくり、活発な意見交換が行われている。出された意見や提案は検討し、ホーム運営や業務改善に反映させている。また、欠席者は職員会議録を閲覧して、情報を共有している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	賃金の幅は経験、資格などを考慮し、実績などは半年ごとに見直しを行う。子育て応援として無料の託児施設を設けている。有給休暇、公休は本人の希望を優先している。		
13	9	○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても,その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の採用に関しては介護、調理とその方の能力の発揮できる環境を作りを行っている。年齢に関しても若い方から、70歳過ぎの方まで様々である。	職員の募集は、年齢や性別、資格等の制限はしないで、人柄や介護に対する考え等を優先している。採用後は、人材育成に力を入れており、法人研修、ホーム内研修等、学ぶ機会は多い。子育て支援として、無料の託児所を併設する等、職員が働きやすい職場環境を整え、職員の離職は少ない。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	入居している方はいろいろな生活史を持っていて、職員は長い人生の中で培ったことを敬い尊重している。法人で行っている。新人職員の人権教育は本年度は行えなかったが、冊子を読んでいただく。	利用者の人権を守る介護サービスについて、毎年、法人研修の中で取り上げ、職員への意識づけを行っている。特に、否定的な言葉遣いや対応には、気づいた時に職員間で注意し合い、利用者を敬い、一人ひとりの尊厳のある暮らしの支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	いろいろな研修に参加し、力量を身に着けていくように計画を立てていたが、コロナウィルスの関係で、現在は滞っている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナウィルスの関係で、専門的な研修設けれず、交流もできていない。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	介護支援専門員をはじめ、職員が一体となりご本人の話を傾聴し、必要であれば電話にて要望に答え、関係を作っている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込みの時から家族の不安を聞き、入居が決まったら、再度要望を聞きながら関係つくりを行っている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の生活の場に出向き見学や、面談を行う。かすみそうでできるサービスや、代替えサービスなどの話も行う。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人が自身でできることを見つけ、できることを一緒に喜び、そのことが維持できるようにしっかり援助している、		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍で面会や、相談業務が難しい中、四半期に送付する「かすみそう便り」に心身、生活の様子を以前より詳しく記入している。質問なども受け入れ、ご本人を支える関係を作っている。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族に会えない分、職員が多くの声掛けを行い、なじみの関係を作っている。	コロナ禍以前は、敷地内の「いなみつ村」での交流や、家族との外出、自宅への一時帰宅等、利用者の馴染みの関係を大切に支援している。家族が定期的に面会に来て貰えるようにお願いしたり、家族が近所の方を連れて面会に訪れる等、ホーム入居で馴染みの関係が途切れないよう支援している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	誕生会、その他の行事でみんなで楽しめる環境つくりを行っている。月に1回の弁当日はインターネットの画面を見て、利用者と一緒に選んでいる。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	本年度はコロナウィルスの関係で、サービス終了後のフォローはできなかった。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時はご本人が何をして良いのかわからない方が多いので、かすみそう独自の生活史を作成し、エピソードなどを共有し、話ができるように検討している。	入居時に、利用者一人ひとりの昔の話、エピソード等をアセスメントに記録し、利用者との日常会話や対応のヒントにしている。意向表出が難しい利用者には、職員が家族に相談したり、職員が利用者に寄り添って話しかけ、その表情や仕草から、利用者の思いに近づいている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にご家族や、関係していた担当のケアマネ、看護師等から、趣味、生活スタイルについての聞き取りを十分に行っている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご自分ではできないと思っていること方にも励ましながら、できることに共鳴し、生活リハビリなどに力を入れ、その人らしい生活スタイルの支援を行っている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族、スタッフ、医師等と情報を共有し、共通の課題、意識をもってケアにあたれるように計画を作成している。	担当職員は、利用者や家族の希望を聴き取り、カンファレンスやモニタリングの中で職員間で話し合い、利用者本位の介護計画を入居後は1ヶ月、その後は3ヶ月毎に見直し、利用者の状態変化があれば、家族や主治医と相談し、現状に即した介護計画をその都度作成している。	

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	状況をわかりやすく記録し、利用者の思いや心身の変化を知ることで柔軟な対応ができるように心がけている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の思いを知り、スタッフが個々に対応できるように意識を持ち体制を整えている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナウィルスの関係で、地域資源の使用ができなかった。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	近くの内科に居宅療養管理指導をお願いし、管理していただく。増悪するようなことや、他科の受診時には情報提供書を書いていただく支援を行っている。	入居時に利用者や家族の希望を優先して主治医を決めている。かかりつけ医にはホーム職員が受診に同行し、結果を家族に報告して、利用者の医療情報の共有に努めている。日頃の状態変化については、ホーム看護師に相談しながら、迅速に対応し、安心して医療が受けられる体制が整っている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	急患などは法人本部の看護師や協力施設である、いなみつ苑の看護師との連携をとっている。また、協力医に相談して、看護師の依頼を行う場合もある。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医の小波瀬病院に入院する場合が多いので、ソーシャルワーカーとの連携を密にとるようにしている。また、利用者の主治医からの情報提供書もすぐとれるように手配している。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に終末期の話を十分にして、かすみそうでは見取りができないことを話している。医療的処置がが必要となってきた場合は、病院への入院、看護師が在中している施設へ行くことも伝えている。	契約時に重要事項説明書を基に、利用者や家族に、ホームで出来る支援について説明し、承諾を得ている。利用者の重度化が進むと、家族と連絡を取りながら、主治医も交えて今後の方針を確認し、看護師や介護職員が方針を共有し、ぎりぎりまでホームで暮らせる環境整備に取組んでいる。	

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職場の研修にて“緊急時の初期対応、事故防止”を行っている。今年度は内容を詳しくしたマニュアルを渡し必読してもらった。		
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回以上の研修を行い、法人内の他事業所との連携もとっている。	非常災害に備えて、グループホーム単独の避難訓練を年２回実施し、通報装置、消火器の使い方、避難経路、避難場所、周囲の事業所との協力体制の確認を行っている。災害時に備えて、非常食、飲料水、非常用備品の備蓄も行い、非常災害に備えた体制を整えている。	
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩と付き合う上で、居室、トイレのカギなどを閉める方には時間が長くなっているときには声掛けを行うようにしている。	利用者のプライバシーを守る介護サービスについて、常に職員間で話し合い、利用者の尊厳のある暮らしの支援に取組んでいる。入浴や排泄では、利用者のプライドや羞恥心に配慮した声掛けや対応の支援に取り組んでいる。個人情報の取り扱いや職員の守秘義務についても周知徹底を図っている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事の時間を食べたい時間に食べれるように配慮している。帰省や外出はコロナウィルスの関係で帰りたいと言われてもできていない。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	昼食前のリハビリ体操など参加、昼寝等、ご本人からどのように過ごしたいのか選択肢を出し、決めていただく。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	選べる方にはその日に着る洋服を選んでいただいたり、髭剃り、散髪で鏡を見てきれいになりたいと思えるように支援している。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	外部からくる食事に手を加えたり、おやつに畑でとれた芋などを蒸かしおやつで食べたりしている。コロナウィルスの関係で、外食ができなかったので、代わりにお弁当日を作り、お店のパンフレットから選んだり、かすみそうでも作ったりした。	配食サービスの料理を温めて、盛り付けして提供している。ホームの畑で取れた新鮮な野菜を利用者と収穫して献立に取り入れ、季節感を楽しめるよう努めている。ケーキ作りや干し柿作りにも挑戦し、作って食べる楽しみの支援にも取り組んでいる。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が立てたメニューなので栄養のバランスはとれている。今年の夏は猛暑が続き、脱水にならないように水分補給でアルカリイオン水を定期的に飲むようにした。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを行い、入れ歯の方は夜間に洗浄剤につけ清潔維持を行った。協力歯科医がいるので、状態が悪くなったら診察してもらっている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居後におむつ使用から紙パンツに昼間のみ変え、トイレでの排泄を行っている。	職員は、利用者の生活習慣や排泄パターンを把握し、利用者が重度化してもトイレで排泄を基本として、タイミングを見ながら声掛けや誘導を行い、排泄の自立支援に取り組んでいる。オムツ外しにも挑戦し、利用者の自信回復とオムツ使用の軽減に取り組んでいる。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給を必ず行い、畑にイモ類を植え繊維質を取ったり、している。リハビリ体操も無理なくできるものを行った。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時になるべく足を延ばして浴槽に入れるように、日々、生活リハビリを通してADLの維持に努めている。体調不良で入浴できなかったら、清拭や足浴を行っている。	利用者の希望や体調に配慮しながら、、基本的には週2回の入浴となっている。入浴は利用者と職員がゆっくり話が出来る大切な時間と捉え、利用者の思いを聞き取っている。また、入浴を拒む利用者には無理強いせずに、清拭や足浴に変更している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼寝、就寝時間などは今までの生活の中で様々ですが、ご本人の希望を聞き、添えれるように支援している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更などがあった際には、説明を受けたものが、特記事項に記入し、ミーティングで詳しく説明を行うようにしている。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみ、日めくり、テーブル拭き、メニュー発表、いただきますの唱和等、無理なくできることを役割としてお願いしている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウィルスの関係で、外出はできていない。	コロナ禍以前は、利用者と職員が系列事業所の祭りに参加したり、園庭での芋掘りや野菜の収穫、ウッドデッキでの日光浴等、出来るだけ戸外に出て外気に触れられるよう支援している。天気の良い日を利用して、外出レクレーションを計画し、バスハイキングや紅葉狩り等に出かけ、利用者の気分転換を図っている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	認知症のため、人のお金も自分のお金も分からない方がいるので、お金の持参はしないようにお願いしている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持参している方がいたが、一日に何度も電話をかけ、家族から没収される。家族から時間を決めかけてくるようにすると、納得された。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	住居自体が全体的に明るく、リビングは広くて採光もよい環境にあるので、くつろげると思う。温度調整は全居室に温度計、湿度計を置き、十分に管理ができるようにしている。食事中にはBGMで季節の音楽をかけるようにしている。	平屋建てのゆったりとした造りで、リビングルームとダイニングのスペースは広々として、明るく開放的な共用空間である。室内は手作りの作品や季節毎の飾り等で、生活感や季節感を取り入れている。ウッドデッキや園庭等、戸外へ出られる環境を整えている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのTVを中心にソファーに座り、お互いが、話しやすい環境を作っている。車椅子の方もソファーに移譲し、ゆっくりとくつろげるように支援している。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前のに自宅で見ていたTVをもって来たり、奥様や、お孫さんの写真を飾ったり、座りやすいイスを持参したりしている。	入居前に利用者や家族と話し合い、利用者の馴染みの家具や身の回りの物、家族の写真等、大切な物を家族の協力で持ち込んでもらい、生活環境が急変しないように配慮し、利用者が安心して過ごせるように取り組んでいる。また、清掃が行き届き、清潔で明るい雰囲気の居室である。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下は広く取り、両側に手すりを付け、歩きやすいように、また、トイレにも規格外の手すりを付けている。浴室も十分な空間を取っている。浴槽に入る際には、独自で浴室の端に置く板を作り、危険防止にも配慮している。		